



東アジア言語文化学会
第 6 回大会

要旨集



2024-2-17

目 次

基調講演

介詞“在”を用いる動詞連語で作る文とその訳	1
高橋弥守彦	1
中国 SF の日本での需要と翻訳の特色	1
山本範子	1
生成 AI の翻訳は人間を越えられるか	1
呉川	1
「新時代」の中日通訳・同時通訳人材育成方法論の一考察	1
宋協毅	1

分科会発表

《罗小黑战记》在日本的传播	2
长沙学院 谢冬	2
计量学视角下宫本百合子小说文体的历时变化分析	2
中国人民大学 王琳軒	2
浅谈日本的猫文化	3
北京工业大学文法学部 高慧	3
安部公房における実存主義への偏見について	3
重慶外国語外事学院 龔智鵬	3
中日古典文学作品におけるキツネにしばる叙事の対照研究	3
南京工業大学 齊珂	4
《宇治拾遺物語》与日本佛教教化思想的世俗化	4
四川大学 吳憂	4
村上春樹「嘔吐 1979」論	4
淄博師範高等専科学校 李娟・孫文娟	4
明治前期の女子教育が性別分業に与えた影響	5
北京郵電大学 張雨馨	5
中上級レベル中国人日本語学習者の作文使用語彙の分析	5
明星大学人文学部 趙海城	5
外交的ディスコースにおける態度評価の研究	6
浙江師範大学外国語学院 丁銳昀	6
社会语言学視域下日源新詞“料理”的考察	6

大連外国語大学 彭申奥	6
论总括范围副词“皆”在日语中的去语法化.....	6
湖北大学外国語学院 張明琮	6
会話文から消える句点と作品の読み方	7
筑波学院大学 小田桐ジェイク	7
言語学習におけるトランス・ランゲージング活用の意義に関する考察 ...	7
東邦音楽大学留学生センター 周亜芸	7
形式名詞「の」「こと」の意味機能と文法機能に関する一考察	7
関西学院大学 張夢華	7
“相当”と他の程度副詞との共起について	8
山東大学外国語学院/人文社会科学青島研究院 時衛国	8
日本学生“满意”“满足”的习得情况分析 & 教学建议	8
北京語言大学東京校 畢文涛	8
日本における中国語学習動機から見る日中交流の変貌に関する研究	9
青山学院大学グローバルビジネス研究所、株式会社 SGS 代表 金洪連	9
中国語会話実践合同授業を通じて見る学生の意識変化と異文化理解について	9
日本大学国際関係学部 柳宇星	9
“语用失误”中数据收集法的再思考	10
中南大学外国語学部日本語学科 高野晃尚	10
模因论视角下汉日“名～”结构对比分析研究	10
大連外国語大学 朱文婕	10
关于汉日领属关系被动句差异动因的考察	10
大連外国語大学 高勝男	10
日本語の文における動作主の省略条件について	11
東京都立大学 彭慧	11
及物性视角下中日男士彩妆广告语篇对比研究	11
浙江師範大学 吳慧怡	11
「なら」文と「如果」文のモダリティについての対照研究	11
山東大学 祁吉曼	12
《人民日报》与《朝日新闻》涉日核污染水报道的话语策略对比研究	12
浙江師範大学外国語学部 应晓朵	12
格助詞「ニ」と他の格助詞の混同について	12
立命館大学 呂芳	12
中国語を母語とする日本語学習者における授受表現の誤用に関する一考察	13
広島大学 朱峰	13
日本語専攻において修士の日本語学習ビリーフ	14

南京農業大学 王艷	14
日常会話における形容詞に後続する否定疑問形式「クナイ」について	14
上海外国語大学 李修衍	14
外国語教育の未来像	15
香港中文大学（深圳）人文科学院 松永源二郎	15
認知類型論的観点による中国人日本語学習者の「使役移動表現」についての習得研究	15
大連外国語大学 姜雨軒	15
移動表現の類型論に基づく中国人日本語学習者の「自律移動表現」に関する習得研究	16
大連外国語大学 黄巧靈	16
日本語教育における CLIL の実践と可能性	16
広島大学 原華耶	16
中国語評論記事の見出し翻訳の難点と技法	17
北京理工大学 吉田陽介	17
“一带一路”视角下的中国典籍外译之路.....	17
浙江師範大学 戴媚佳.....	17
松岡荣志新译《诗经》的颜色词体认构建	17
南京農業大学 左玉林.....	17
日本可再生政策文本批评话语分析研究	17
大連外国語大学 崔玥婷	17
汉语“如果类”假定条件句式日译倾向计量研究.....	18
大連理工大学 于麗娟.....	18
多変量解析による証拠性モデルの日中対訳研究	18
大連理工大学 田浚人.....	18
選択体系機能理論に基づく中日翻訳分析	19
西南学院大学 単艾婷.....	19

介詞“在”を用いる動詞連語で作る文とその訳

高橋弥守彦

从汉语的基本句型 SPO 这一结构来看，不同结构的连谓句和兼语句均有成对的情况出现，这大概是受中国“对称文化”之影响的缘故吧。汉语中对比句和比喻句表达较多，这也是“对称文化”的原因吧。

然而，从带有介词的动词短语的句子来看，其结构却截然不同。本文将探讨带有介词的动词短语的句子，通过调查分析，阐明这类句子的结构特征。

中国 SF の日本での需要と翻訳の特色

山本範子

- 1 林久之氏を中心に中国語から日本語翻訳され中国 SF が紹介されてきたが、あまり広まらなかった。
- 2 ケン・リュウの登場により、事態は大きく変化する。中国出身のアメリカ人作家による『紙の動物園』が大ヒットし、中国 SF に対する興味が出てくる。ケン・リュウは創作のみならず中国 SF の翻訳でも名を馳せていたため、彼が翻訳した中国 SF が日本語に訳され紹介されることとなる。(英語からの重訳)
- 3 劉慈欣『三体』の大ブーム。同時期に中国 SF は中国語から日本語へと翻訳紹介されるようになる。ただし、『三体』は特殊で、中国語からの日本語訳の後、さらに英文を参照にして日本語からの日本語という変換が行われる。
- 4 劉慈欣の作品はその後すべて、中国語からの日本語訳、その日本語を大森望氏が改訂、という経過を辿ることとなる。
- 5 それ以外の中国 SF は中国語から日本語訳のスタイルである。
- 6 テンセント版ドラマ『三体』の特別監修について。

生成 AI の翻訳は人間を越えられるか

呉川

2015 年、劉慈欣の科幻巨作《三体》英译本在美国斩获被誉为“科幻作品诺贝尔奖”的雨果奖，为作品赋予了新的生命。2019 年至今，由大森望牵头的团队翻译的《三体》系列作品，在日本引起持续强烈的反响，取得了巨大的成功，成为进入 21 世纪以来在日本最畅销的中国文学作品，同时也为我们提供了中国科幻文学作品日译的典型范例。

本次讲演拟将生成 AI (ChatGPT3.5)、小牛翻译、谷歌翻译的三种译文与《三体》的两种日译文本相比较，从而揭示《三体》日译本的译文特点、翻译策略，探讨译者的主体性及文学翻译的“形神兼备”问题，同时去思考人工智能时代如何利用人工智能进行翻译等问题。

「新時代」の中日通訳・同時通訳人材育成方法論の一考察

宋協毅

1. 中日両国の友好交流と平和共存は東アジア地域、ひいては世界の平和と安定に大きく寄与することであり、高水準の中日通訳・同時通訳人材の育成はそのために大きな役割を担っている。
2. 高水準の中日通訳・同時通訳人材を育成するには、教師側として翻訳・通訳という

仕事の本質や原則、及び能力基準などを熟知し、自分自身もその実践を重ね、「温故知新」をしながら、科学的な教授法を用いて教えるべきである。学生側も明確な学習目標を定め、やる気・根気・年期の「三つのキ」をモットーにひたむきに勉強すべきである。当然、学生中心の教授法でその意欲を喚起し、寝そべりせずに頑張るように仕向けるのが教師側の責務であろう。

3. 中国の各大学の MTI は高水準の通訳・同時通訳人材を多く養成しており、大いに評価すべきである。現存の問題として、例えば一部の教師には教学と実践能力をさらに向上させる必要があり、一部の学生には日本語の聞く・話す・読む・書くといった基礎学力の不足があり、母国語・母文化としての中国の言語文化の足りなさも問題である。さらに、通訳実習の場が確保されていないのも大きな問題のひとつであろう。

4. 以上の問題点を踏まえ、学生が通訳の勉強中によく見られるミスや問題点を考察しながら、その対策を考えて、自分自身の40年以上の日本語の勉強と研究、通訳の教学と実践の中の実例を挙げて、通訳の学習と教授法を紹介する。

5. シャドーイングなどの各種練習をするのは大事であるが、如何に速く中日両国の各関係分野の文化背景・関係知識・専門用語などを習得するのも通訳学習のキーワードになる。

6. 人工知能（例えば ChatGP）などは人類に大きな衝撃を与えているが、通訳業界も例外ではない。理性的に AI を受け入れながら、その長所と短所を知り、人間の長所を生かして、通訳の学習と教授を進めていかなければならない。

《罗小黑战记》在日本的传播

长沙学院 谢冬

本文通过收集推特上《罗小黑战记》相关的推文，分析其在日本的传播现状、受欢迎的原因，以期为中国影视作品在日本的传播提供参考。

计量学视角下宫本百合子小说文体的历时变化分析

（計量的視角から見た宮本百合子小説の文体の経時変化）

中国人民大学 王琳軒

宫本百合子在二战期间因坚定不移地拥护日本共产党而屡次遭到迫害，出狱后又因病情反复而被迫中断写作，坎坷的人生经历可能会对她的文体风格造成影响。为探究此问题，本文采用计量文体学的研究范式、统计学方法和编程（python 和 R），通过各词性占比、MVR、MATTR、单现词占比、外来语占比、平均句长、句法复杂度、文本可读性指数这22个指标，对该作家的小说文体特征进行了探索性分析，并用层次聚类验证了先行文献中对该作家创作时期分期的合理性。

层次聚类将该作家的创作时期分为4阶段，与先行研究主张的“3阶段论”和“5阶段论”不同，且4阶段的分界线与该作家人生中的重要转折点有关联。根据层次聚类结果，笔者检验了22个指标的4阶段的平均值差异在统计学上是否显著。

针对各指标在4阶段的变化原因，笔者结合该作家的人生经历，尝试对其做出了合理解释。如随着该作家年龄增长，作品中名词增加是由于经验知识的丰富和经济发展带来的新事物增加造成的；作品的词汇丰富度、外来语占比、平均句长、句法复杂度和文本可读性指数受到在俄留学的影响，该作家会使用更多的外来语、句子变得更短、句法复杂度更简单、文本更易读。笔者认为这些现象和“语言磨蚀”（李可夫，2012）有很大关系。

浅谈日本的猫文化

北京工业大学文法学部 高慧

众所周知，日本民众对猫的喜爱在世界上可谓独树一帜，这种喜爱渗透到生活的方方面面。从保护佛家经文的“圣猫”到贵族阶级的专宠，再到猫岛、猫叔、猫咖，尊为“神兽”的猫逐渐走进寻常百姓的家中。可见日本人的爱猫情结跨越了阶层，成为各阶层共通的精神寄托。猫成为日本创作文学艺术的重要元素之一，民间流传着各种关于猫的神秘传说。日本人同猫朝夕相处中创造出了独具特色的“猫文化”，且随着时代的推移，猫文化的浪潮不仅没有淡出日本人的生活，反而在现代生活中焕发着新的活力与久经不衰的魅力。因此，研究日本猫文化有助于我们更深入了解日本民族的特性与文化。

纵观国内外先行研究，大部分学者都着眼于“猫”谚语背后中日文化的异同、文学作品展现的猫形象、动漫视角下的猫形象探究日本文化。站在“萌文化”和“猫咪经济效应”角度分析猫文化的学者却不多。因此，本文从猫的历史起源入手、通过文学、“萌文化”和“猫咪经济效应”深入分析该文化形成的原因以及展现的民族特性。

安部公房における実存主義への偏見について

—『方舟さくら丸』における自由への消極的な態度—

重慶外国語外事学院 龔智鵬

『方舟さくら丸』についての先行研究は、一般的に安部公房が実存主義の哲学に影響を受けているとされ、この作品では、都市で周縁化された人々と現実社会の不一致、現代人の孤独と疎外感に焦点を当て、社会の不合理性を暴露しようとしており、自由の道を探求し、悲劇的な要素を持っている。しかし、安部の作品の主題とハイデガー、サルトルなどの実存主義哲学を比較研究する学者はほとんどいない。ハイデガーの「共存在」とサルトルの他者論を振り返ることによって、個人と世界、他者との関係について考える際に、ハイデガーもサルトルも、外部環境が人の内面に与える影響だけを強調するわけではなく、自由を追求する可能性とその責任感を積極的に論じている。『方舟さくら丸』において、安部は実存主義哲学における周囲世界が個人に制約を与えることに気付いているが、個人と世界の「共存在」、個人の自由を追求する際の責任感などを認識していない。つまり、一面性が存在している。安部は『方舟さくら丸』で、隔絶した「方舟」を描き、個人が周囲世界から離脱して自由に生きる可能性を探求している。しかし、「方舟」の内部は物質的な基盤や秩序の規則などが周囲世界と真に隔絶されることはなく、依然として周囲世界と「共存在」している。安部はこの社会的なシミュレーションである「方舟」を通じて、人は完全に周囲世界の道具のネットワークから逃れることはできず、完全にハイデガーが言った「道具」の属性を脱ぐことによって個体の存在を回帰させ、自己の存在価値を表現することもできない、という認識を表している。安部が追求しているのは制約のない、完全な自由である。それは現実の社会では実現不可能である。そのため『方舟さくら丸』は強い悲観的な態度を示している。

キーワード：安部公房 実存主義 自由 周囲世界 「道具」

中日古典文学作品におけるキツネにしばる叙事の対照研究

—『今昔物語集』と『聊斎志異』を中心に—

周知のように、中日両国は民族文化に似ているところが数多くある。キツネへの崇拜はまさにその一つ表現といえる。しかし、時間の経つことや社会生活の変遷につれて、両国のキツネイメージがかなり変わった。本稿は中日両国の古典文学作品『聊斎志異』と『今昔物語集』を中心に、文学作品における狐叙事を通してキツネのイメージを明らかにし、民族の文化や心理に隠れている根本的な原因を探しとってみる。具体的に『今昔物語集』と『聊斎志異』という両作品における狐叙事を見つけ出し、叙事類型によって分類し、キツネイメージを分析し、その相違点を究明した上で、作品の創作背景、著者の経験と意図、中日両国の文化の面から相違の成因を検討してみる。結論としては、古典文学作品のキツネ叙事において、キツネイメージは人間性や変身にしぼり、キツネの人間性や変身能力は両作品に著しい異なりが見られ、その相違の成因は社会の時代性や作者自身の経験にあるのではないかと思う。

《宇治拾遺物語》与日本佛教教化思想的世俗化

『宇治拾遺物語』における仏教教化思想の世俗化

四川大学 吳憂

说话文学分为佛教说话和世俗说话，前者注重宗教的宣讲，后者则取材广泛，更具世俗性和趣味性。编撰于镰仓初期的《宇治拾遺物語》，兼具佛教说话与世俗说话的特点，书中收录的佛教说话摆脱了浓重的说教色彩，寓教于乐，展现出日本佛教教化思想的世俗化。

《宇治拾遺物語》中的佛教说话与世俗说话相似，注重描写人性，且并不重视对具体佛法佛经的描写，宗教色彩较弱。书中既有对高僧的歌颂也会展现出其粗鄙下流的一面，在滑稽搞笑之中，一些看似是否定佛教的故事实则展现出佛教的本质源流。这样的编撰书写方式使《宇治拾遺物語》更加贴近世俗的、庶民的精神世界，摆脱了佛教说话惯有的目的性，降低说教意味的同时使内容更具亲和力，也更容易被世人所接受。在镰仓初期，日本社会动荡，佛教出现分流，旧佛教已不适应时代的发展，镰仓信佛教正在孕育之中。成书于这一时期的《宇治拾遺物語》必然会受到社会与思想变动的影响，体现出日本佛教教化思想的转变，这种教化思想既不同于奈良时代的“镇护国家”理念，又区别于平安时代专属于贵族知识分子间的密教和显教，是一种适应新兴武士阶级和庶民阶层的需要的教化思想，展现出世俗化的特点。

本文结合社会背景，对说话集《宇治拾遺物語》进行分析，探究镰仓初期日本佛教教化思想的世俗化，揭示这一时期日本佛教的发展倾向。

村上春樹「嘔吐 1979」論

—罪悪感の正体—

淄博師範高等専科学校 李娟・孫文娟

村上春樹の「嘔吐 1979」は 1984 年 10 月雑誌「IN☆POCKET」に発表された短篇小説である。それは「聞き書き」、「街の眺め」をテーマとする連作の七作目である。後に短編集『回轉木馬のデッド・ヒート』に収録される。

物語は 27 歳の「古いレコードのコレクター」である「彼」の話である。「彼」は妻もいないし、「決まった恋人」もいない。彼は「友だちの恋人や奥さんと寝るのが好き」、

「友だちのつれあい専門に寝」る癖がある。ただし、その癖は彼に「嘔吐」が訪れ、「電話」が鳴り続けるのである。彼の吐き気は 1979 年 6 月 4 日から 7 月 14 日まで続いたのである。

本論は主人公「彼」の性格、生き方、価値観について論じるのである。そして、彼の「嘔吐」と彼の「癖」との関係性を検討する。最後、「彼」の「嘔吐」は罪悪感の表現だと考える。その罪悪感の正体を探究する。

明治前期の女子教育が性別分業に与えた影響

北京郵電大学 張雨馨

1868 年、日本は明治維新を行った。文明開化に伴い、欧米各国の近代的教育制度が日本に導入されて、その中にも女子教育が含まれる。明治前期の女子教育理念はヨーロッパの特色ある「賢母論」から日本の独特な「良妻賢母」へ転換していった。明治前期において、実は西洋思想と儒学思想がともに社会に影響する。そのため、当時の女子教育が二面性を持つと言われる。つまり、近代の特徴と儒学的特徴が持たれる。しかし、そういう「二面性」があるからこそ、当時の社会の性別分業が伝統的儒学の性別分業から近代の資本主義に適応した性別分業にうまく変わったことができた。

言い換えると、明治前期の女子教育は西洋思想から影響を受けたが、儒学の影響から脱却していない。儒学思想の「男尊女卑」主張が特徴的であり、明らかに打ち出されなくてもそのような思想のもとで「男は外女は内」という性別分業が社会に根付いた。近代的資本主義は表面的に男女平等を唱えているが、実は儒学と同じ性別分業を主張し、男女の格差が裏に深く隠れたのである。両方から影響を受けた明治前期の女子教育はより平和的な手段として、儒学の性別分業と近代資本主義の性別分業を結びつけた。

中上級レベル中国人日本語学習者の作文使用語彙の分析

—B-JAS データを利用した母語話者との比較—

明星大学人文学部 趙海城

本発表では、北京日本語学習者縦断コーパス「B-JAS」の非対面調査の作文課題で使われた語彙について分析した結果を報告する。中国語を母語とする中上級レベル日本語学習者 17 名と統制群の日本語母語話者 17 名、計 34 名がそれぞれ 6 本執筆した作文データ(補助記号を除いて 150,757 語)を量的に分析した上で、学習者と母語話者の使用語彙の異同点を探る。分析した結果、学習者は日本語母語話者より副詞、形容詞、形状詞、代名詞を多用する。内訳にも相違が見られる。

副詞で言うと、学習者は「一番、良く、もう、段々、矢張り、未だ、必ず、何故、ずっと、最も、若し、丸で、多分、全然、一杯、直ぐ、例えば」などを母語話者より多用しているが、「迎も、先ず、余り、少し、中々、沢山、こう、全く、確り、特に、大抵、可成」などを母語話者ほど使用していない。母語話者作文に見られる「大抵、強いて、せめて、さっぱり、なお、ほかほか、そっと、さっそく、わりと、ついつい」の使用は見られない。また、接続詞で言うと、学習者は「そして、さらに、しかも、一方、ただし」を多用しているが、「また」は母語話者ほど使用しない。

上記分析を踏まえて、テキストマイニング手法で学習者と日本語母語話者の作文内容を可視化して考察する。

外交的ディスコースにおける態度評価の研究

--林芳正日本元外務大臣の演説を例に

浙江師範大学外国語学院 丁銳昀

本研究は林芳正日本元外務大臣の任期中の外交演説をデータとして、佐野の再構築された態度評価システムから演説における態度評価を分析している。分析した結果、①内評価では、「能動」の態度評価の使用が最も多く、これは林元外相が外交演説で自らの感情と訴えを積極的に表現する傾向があることを示し、②外評価では、「自立」の態度評価の使用が最も多く、次は「他動」であり、「相対」の使用が最も少ないことが分かった。林元外相はこれらの態度評価を使って日本政府の態度と立場を表すと同時に、他国を助けられる能力を示している。

社会语言学视域下日源新词“料理”的考察

大連外国語大学 彭申奥

社会语言学认为，社会变迁推动语言演变，语言变化则反映社会动态。本文以日源新词“料理”为研究对象，首先运用历时研究和语料库研究的方法，梳理了“料理”的语义变迁过程。再从社会语言学的角度出发，结合汉日对比，考察了“料理”新义在现代汉语中的具体使用情况，并分析了其背后的社会成因。研究得出，在古汉语中，料理具有“照顾”、“处理，安排”、“料想”、“排遣，消遣”“腌菜”、“装盘”等多重语义，但仅为动词性用法。平安时代传入日本后，“料理”一词保留了部分原义，发展出名词性用法。2000年后“料理”的新义被中国词典收录并固定下来。新义用法多以复合名词的形式出现，如“国名/地名+料理”、“形容词+料理”、“材料+料理”等，而新的动词性用法多为“料理+食材”、“料理+后缀”等形式。日语中“料理”一词的构词能力极强，而汉语中本身存在“～菜”、“～餐”等后缀以及“菜肴”这样的书面表达，因此“料理”的新义构词能力相对有限。但随着精致健康的日本料理文化在中国的流行，“料理”一词附加了时尚高级的色彩，使得汉语在表达这种概念时更加精准和生动，从侧面表现出当代中国人民对生活品质的追求。可以预想，“料理”一词的使用会更加广泛和深入。

论总括范围副词“皆”在日语中的去语法化

湖北大学外国語学院 張明琮

关于去语法化的定义直到现在仍有争论，在本文中笔者认为去语法化是指一个虚词变成实词的过程。近年来基于去语法理论以汉语为对象进行的研究有覃（2023）、闫（2022）、于（2022）、徐（2019）等；以日语为对象进行的研究有 Park（2023）、塩田（2023）、杨（2015）等。以上研究基于现代汉语日语或古代汉语日语，论证了汉语和日语中存在的去语法化现象，但基于汉语和日语间的特殊关系及语言接触理论，以汉语考察日语汉字去语法现象的研究则并未有人涉足。本文即以总括范围副词“皆”为考察对象，研究“皆”在日语中的去语法化。本文运用词典与语料库历时考察了“皆”在汉语中的演变以及在日语中的流传演变状况。研究发现“皆”早在甲骨文中就已出现，最初为实词，为言语一致义，后在春秋时期就已虚化为表全、都义的虚词。而早在经王仁传入日本的《千字文》中就有“皆”字，日本现存最早的书籍《古事记》中也有日本人对“皆”的使用，但直到江户时期的洒落本中“皆”的去语法化现象才大规模出现。概而言之，“皆”在词义，发音，语法上出现了去语法

化現象。而导致这一现象出现的原因有汉日语序的差异、日语的省略现象、同义词群的竞争以及音便等。

会話文から消える句点と作品の読み方

—太宰治『人間失格』の出版史と補助符号の変遷について—

筑波学院大学 小田桐ジェイク

文章は語彙や文法から成り立っていることは、言うまでもないことだが、他に補助符号が導入されることで、文章はより分かりやすくなるという。例えば、句読点（、。）をはじめ、括弧類（「」『』、[〰]、[〰]）、リーダー（……）、ダッシュ（——）なども、文章の読みやすさのために使用されることがしばしばある。これもまた、鉤括弧に囲む会話文にも補助符号の使用も非常に重要な役割を果たしている。日本が近代化されていくにつれて、西洋から句読法や他の補助符号が日本語の文章に導入され、文学にも大きな影響を与えている。

しかし、文学作品に出てくる、鉤括弧に囲まれている会話文の句読法の機能は十分に考察されていないことがうかがえる。本発表では、文学作品の鉤括弧に囲まれている会話文の中に出てくる句読点及び他の補助符号という記号を取り上げ、版が重なっていくことで、その記号の意味を明らかにしていく。

本発表では、句読法や文の構造にあたる補助符号に関する研究を整理した上で、日本近代文学作品における会話文と句読法及び補助符号の機能を考察する。そして、太宰治の代表作『人間失格』（1948）を取り上げ、直筆原稿から近年に至るまで、会話文の句点の変遷を論考していく。

言語学習におけるトランス・ランゲージング活用の意義に関する考察

—日本の大学の留学生向け日本語の授業の場合—

東邦音楽大学留学生センター 周亜芸

多言語・多文化社会が進む中、言語および記号システムの混用による教授法や学習ストラテジーなどの研究が増加している。そのうち、代表的な概念である「トランス・ランゲージング」がある。トランス・ランゲージングとは、マルチリンガルが持つ全ての言語資源を、言語の境界線を超越して一つのつながった範疇として捉えた概念である。本発表では、日本の大学留学生向けの日本語の授業において、トランス・ランゲージングを用いた授業活動の効果と意義を検討する。具体的には、発表者は、多言語多文化背景を持つ留学生の個々の授業活動に応じて別々の言語使用に注目し、トランス・ランゲージングの機能及び役割を考察する。授業内のトランス・ランゲージングを通して、異なる言語使用を背景とした学習者同士の柔軟な交流を促進するとともに、学習者コミュニティの構築に貢献できると期待できる。また、学習者が自らの言語資源を自由に操られる主体的な行為者であるという姿勢を身につけさせると同時に、学習者の思考を促し、理解を深め、産出の質を上げられると考えられる。

形式名詞「の」「こと」の意味機能と文法機能に関する一考察

—中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を手掛かりに—

関西学院大学 張夢華

本研究は、中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を手掛かりに、日本語を母語とする話者の事例とも照らし合わせながら「の」と「こと」の意味機能と文法機能を考察することを目的としたものである。具体的にはまず、先行研究において指摘されてきた「の」と「こと」の機能を概観し、問題点を指摘した。そしてその上で、用例の分析を行い、「の」と「こと」の機能について再び考察を行った。その結果、①「の」と「こと」の機能はそれぞれ2種類あることがわかった。一つ目は他の名詞の代わりに使われる代名詞的な「の」と「こと」である。二つ目はフレーズを名詞の形にして機能させる名詞化の「の」と「こと」である。②代名詞的な「の」は「物」「事」などの意味を表せるが、「こと」との違いは「の」が場面的にあるいは文脈的に何を指しているかが特定される必要がある。それに対して「こと」が代名詞として使われるときにはそのような特徴がない。③前のフレーズを名詞の形にすると、「の」は実際の意味を持っておらず、名詞化のマーカーでありながら聞き手（読み手）に、フレーズが表す事態に対してその場にいるように臨場感を持たせる機能を持っている。「こと」は前のフレーズを名詞化するうえで、特別な意味を含意して様々な表現意図が生じる。

“相当”と他の程度副詞との共起について 山東大学外国語学院/人文社会科学青島研究院 時衛国

“相当”作为程度副词，与其他程度副词同侧共现时有以下用法：

(1)但在整个民国时期，畲族地区的学校教育还是相当十分落后。(钟伯清编著.中华民族全书 中国畲族[M].2012)

(2)～，(管道标识)对于促进护理工作的顺利开展，提高患者生命质量十分相当重要。(向军莲主编.浅谈护理创新发明：从创意到实现[M].2022)

(3)事实上，那又岂是一个乱字了得？那是非常十分相当乱。(陈谷媚著.媚影独行[M].2016)

(4)“相当十分非常给力呀”等。(张颖炜著.媒体语言研究丛书 网络语言研究[M].2015)

(5)“～！所长的字，真是非常相当很不错呀！”(李焕龙著.阿文的故事[M].2013)

“相当”在(1)中居于程度副词“十分”之前，在(2)中居于“十分”之后，在(3)中居于程度副词“非常”和“十分”后侧；在(4)中则居于“十分”和“非常”前侧，在(5)中居于“非常”和“很”之间。

本研究将(1)(2)(3)(4)(5)这样的用法称为“相当”的同侧共现用法，其中(1)和(4)是其前置用法，(2)和(3)则是其后置用法，(5)则是其居中用法。

本研究拟考察“相当”的这几种共现用法，看看它怎样与其他程度副词共现，受到怎样的限制，各有哪些特点？旨在阐明“相当”与其他程度副词同侧共现时的语义特征。

日本学生“满意”“满足”的习得情况分析 & 教学建议 北京語言大学東京校 畢文涛

“满意”和“满足”是中文中难以区分的近义词，由于日语中也有同形词“満足”，因此对于日本学习者来说，在理解意义方面可能会更容易产生混淆。彭诗梦（2019）基于 BCC 语料库对留学生全体的“满意”和“满足”的偏误情况做了分类和分析，同时提出了一些课堂教学流程方面的建议。但是，无论从分析还是建议都以英语圈学生为主要对象，对汉字圈学生的特点并未提及。而畢文涛（2023）通过与别国留学生的偏误情况对照发现，日本学生的偏误倾向性显著，类型较单一。由于日本也使用汉字，但意义出现偏离，母语负迁移的

影响较之别国学生尤为突出。而“满意”在现代日语中不存在，90%的日本学生未能理解“满意”和“满足”的区分。本文在此基础上，对日本学生的习得情况做了更深入思考，就面向日本学生“满意”和“满足”的教学，运用情景法、对比法、图片法、归纳法等多种国际中文教育中常用的教学方法，通过实例提出了有针对性的教学建议，为对日汉语教育提供了完整的教学示范，旨在对今后近义词辨析的教学提供新的教学思路。

日本における中国語学習動機から見る日中交流の変貌に関する研究

青山学院大学グローバルビジネス研究所、株式会社 SGS 代表 金洪連

外国語学習において母語以外の言語を学習することを第二言語習得と言い、グローバル化が進んでいる今日では多言語習得者が増加傾向にある。日本では英語の次に中国語が多く選ばれている。特に大学卒業後の社会人の中には、仕事や生活の関係、趣味の一つとして3年後、5年後、10年後、更に20、30年後に学習を再開している人が少なくない。本研究では日本における中国語学習の変化について調べ、日中交流がどのように変貌してきたかを明らかにしたいところにある。

この研究では中国語履修経験者社会人 100 人ぐらいを対象にアンケート調査、ヒアリング調査を行い、学習過程における問題点、今後継続する上での課題をまとめ整理したいと考えている。

ここ20年間の中国語は外国語教育の一貫として定着し、学習者は全体的に増加している。彼らの学習動機から今日に至って仕事や生活に活かせ、趣味として継続できたことは、既に日中友好交流及び国際社会の経済活動へ大きな貢献をしている。一方で、統計上からは日本では毎年約20万人の学生が第2外国語（中国語）を学習しているが、僅か一部の学生が留学や中国での就職道に進んでいるというデータが見られる。前述した内容に疑問を抱きながら、学習動機から学習継続課程に起きた変化に焦点を当て、具体的な出来こと等を整理し結論に繋げたいと思う。各々の時代背景の分析、状況は把握が今後の中国語教育事業改善及び更なる発展に健全な提案ができると期待している、"

中国語会話実践合同授業を通じて見る学生の意識変化と異文化理解について

—中国語会話合同授業の成果と課題—

日本大学国際関係学部 柳宇星

本研究は、中国語を履修している大学生を対象として、「中国映画」、「中国茶」、「民族衣装」、「中国書道」、「京劇」、「中国の名所」及び「卓球（台湾料理と屋台）」の「文化的要素」を取り上げ、コーナーを設置し、中国語会話の実践授業を行い、大学生の意識の変化を明らかにするとともに、語学教育における異文化理解教育の必要性を考えられるものである。学生の中国に対するイメージや授業に対する期待など、意識の変化から、実践授業による影響とその可能性について考察し、異文化理解を目指す授業実践への具体的示唆を得た。調査の結果では、実践授業後には授業前により意識大きく変化するとともに、「中国人の生活文化」、「生活習慣」や「行動様式」などのキーワードが浮上し、実際に実践授業で「中国文化」との出会いから「言葉を勉強する楽しさ」に繋がることが明らかになった。また、従来の言語教育のスタイルの「発音、語彙、文法や会話練習の繰り返し」だけでなく、異文化理解に焦点を当て、中国語によるコミュニケーション能力を高めるには、大学での中国語教育における会話実践授業の肯定的な可能性があることが明らかになった。中国語コミュニケーション能力向上の構築に向けた長期的な教

育的支援の必要性が示唆され、中国語の授業のあり方や講義の内容の改善などがこれからの課題になると考えられる。

“语用失误”中数据收集法的再思考

—以对外汉语教育为例—

中南大学外国語学部日本語学科 高野晃尚

语际语用学（研究学习者的语用策略）和对比语用学（比较学习者母语和目标语言的语用策略）的研究重点是调查学习者和目标语言母语使用者的言语生成，以弄清语言生成的实质。据笔者所知，关于学习者语用失误的研究在日本数量不多且规模很小。但在中国，已有不少的研究成果，这些方法为笔者提供了各种建议。本文以对外汉语教育为重点，概述了研究方法，尤其是数据收集方法。结果表面，很多接触情境都是让“朋友”以多项选择的形式来选择答案的，这在很大程度上反映了研究人员认为该话语表达是错误的价值观。“对朋友的语言表达有正确答案吗？”从这一哲学问题出发，论述了使用多项选择进行调查有多少不确定性的因素。

模因论视角下汉日“名～”结构对比分析研究

大連外国語大学 朱文婕

日语中“名”（めい）做前词缀时表示“优秀的”“有声望的”的意思。其中如“名场面”“名台词”等用法也出现在了汉语中。模因论是基于进化论来解释文化进化规律的理论。模因可以看作是一个文化单位，与单个模因相比模因复合体更具传播力。且模因传播与需要经历选择、复制、传播、变异四个环节；形成机制包括语言、社会、心理三方面因素。语言的变化同样也符合这一现象。汉日语中都存在“名～”的词汇，且其发展规律体现了模因论中模因的形成、模因的复合和传播。如“名场面”“名台词”的传入是汉语中“名～”词汇的第三阶段的变化。第一阶段是“名～”词汇的产生，如“名人”“名门”等。这些词汇传入日本后经过选择、复制、传播、变异后，产生一些新的词汇，其中“名产”“名品”又传入中国，经历同样的过程。汉日“名～”的交流的过程中也会受本国语言特征、社会、心理的影响。因此，本文将从模因论的角度对汉日“名～”结构进行对比分析。

关于汉日领属关系被动句差异动因的考察

大連外国語大学 高勝男

“汉语和日语中均存在一种违反生成语法规则的被动句，该类被动句主语和宾语之间通常存在某种所属关系，因此称为“领属关系被动句”。本研究从汉日对比的角度考察此类被动结构的生成差异及其背后的认知成因分析。

本研究基于于康（2009；2012；2013）、陈访泽·陈珊珊（2018）、姜灿中·文旭（2023）等前人研究，按照“整体部分领属”“所属物领属”“亲属·称谓领属”三种领属关系进行分类，考察汉日领属关系被动句转换为典型被动句时的合法性差异。并基于认知参照点模型（Cognitive Reference Point Model, CRPM），通过分析典型被动句和领属关系被动句在认知过程上存在的差异，探讨汉日在派生此类被动句时认知模式的差异。

本研究认为典型被动句突显直接受事和其受到的直接影响；领属关系被动句突显间接受事和其受到的间接影响。日语倾向于将话者和事态放在一个认知场内，认知主体从固定视角出发按照单向顺序对事态进行逐一识解，不能前后跳跃，因此必须通过派生领属关系

被动句来强调间接受事；而汉语倾向于将话者放在高于认知场的第三视角，认知主体可以选择不同参照点对事态进行放射性识解，可以前后跳跃，因此典型被动句也可以表示间接影响，领属关系被动句派生条件更为严格。

日本語の文における動作主の省略条件について

——日中対照研究の観点から

東京都立大学 彭慧

動作主は意味役割において、文の中にある名詞、代名詞が表す意味を、主に動詞との関係を基に分類したものである。日本語学習者は『古事記』についての感想文で“この文章では伊邪那岐命という神の妻が亡くなり、彼 1 は妻を探して黄泉地獄へ向かう。しかし、彼 2 は思い通りに女神を連れて帰ってこなかった。女神の肉体は腐敗し、彼 3 は彼女の死体を恐れて逃げた。”と述べた。文法としては正しいが、動作主は何回も出たので、不自然な文だと思われる。そのため、以下に述べる疑問が生じた。なぜこのような現象が発生したか。もし日本語は中国語よりも省略する傾向があるとする、日本語文動作主の省略の条件は何か。動作主が省略するかどうか問題について、日本語学習者にとっては特に注意が必要なことは何か。日本語には一体どのような省略現象が見られるか。そこで、本稿は日中対照研究の観点から、日本語の文における動作主はどの場合に省略され、どの場合に省略されないか、動作主を省略の条件は何かを、『三体』を主たる資料として、調査を行った。その結果、単文においては述語の形から動作主がわかる手がかりがあるので、表面的にはっきりと出現しないことが示された。また、復文においては、前文の主題と動作主が同じである場合に、動作主が省略しやすいこと、さらに、中国語より日本語のほうは動作主が省略されやすい傾向があることが明らかとなった。

及物性视角下中日男士彩妆广告语篇对比研究

浙江師範大学 吳慧怡

作为一种带有目的性、说服性的传播活动，广告的存在也引起了许多学者的关注，以广告语篇为研究对象的专著与论文至今仍层出不穷。此前，学者们主要从修辞学、语用学、传播学等角度对化妆品广告语篇进行研究。然而，上述研究的对象大多以女性化妆品广告为主，关注男性化妆品广告的研究数量还为数不多，以男士彩妆广告为对象的研究更是寥寥无几。随着社会价值观的逐步转变，越来越多的男士开始注重起外在形象和日常保养，在日常生活中也会使用彩妆产品。因此，产品销售方如何通过广告吸引男性消费者前往购买彩妆产品也是一个值得关注的课题。本研究以韩礼德的及物性理论为分析框架，从语篇分析的角度对中日男士彩妆广告语篇进行了及物性分析。通过分析，我们发现中日广告语篇主要由物质过程小句、关系过程小句和心理过程小句组成，且都带有叙述意义。中文男士彩妆广告语篇多使用第二人称代词增加语篇的亲切感，并倾向于通过描述消费者遇到的肌肤问题，引起消费者的购买欲望；日文男士彩妆语篇则倾向于描述产品的质地、功效来吸引消费者。此外，中日广告语篇都会利用感性劝说策略，强调产品使用的便利性以及使用后的观感。

「なら」文と「如果」文のモダリティについての対照研究

——認知言語学的視点から——

本研究は、日本語と中国語の仮定複文のモダリティについて、「なら」文と「如果」文を例に、認知言語学的視点から両者のプロトタイプ的なモダリティの類型と主観性の変化プロセスを検討しようとするものである。

『中日対訳コーパス』によると、「なら」文といい、「如果」文といい、両者には判断と要求という二つのモダリティのタイプの分布傾向があり、他には、意志や命令などのモダリティのタイプもあると見られる。その中で、両者にはいずれも判断のモダリティのタイプの使用傾向があると考えられる。統計の結果を示すと、以下の通りである。

モダリティの類型：	判断	意志（あるいは決心）	要求	命令
関連表記「なら」：	88 (52.1%)	14 (8.3%)	49 (29.0%)	18 (10.6%)
関連表記「如果」：	103 (64.4%)	18 (11.3%)	28 (17.5%)	11 (6.8%)

「なら」文と「如果」文のモダリティのタイプについては、認知言語学のプロトタイプの範疇理論に基づき、そのプロトタイプ的なタイプが何であるか、また、その周辺のモダリティのタイプがどのような特徴を有しているのかを考察する。そして、「なら」文と「如果」文の表わす主観性については、主観化理論に基づき、プロトタイプ的なモダリティのタイプからその周辺のモダリティのタイプへ変わっていると、その主観性が次第に強まっているのか、それとも弱まっているのか、という主観性の変化プロセスを明らかにする。

《人民日报》与《朝日新闻》涉日核污染水报道的话语策略对比研究

浙江師範大学外国語学部 应晓朵

新闻话语是意识形态的重要载体，在构建国家主流意识形态中发挥着重要作用。本文以 Reissigl 和 Wodak 的话语策略为分析框架，选取《人民日报》与《朝日新闻》中涉日核污染水报道作为语料，分析《人民日报》与《朝日新闻》涉日核污染水报道的话语策略，探究两报如何使用在新闻话语中使用话语策略构建和传达国家主流意识形态，并对结果进行对比分析。研究表明，《人民日报》与《朝日新闻》都使用指称策略、述谓策略和视角化策略进行相关报道，构建和传达国家主流意识形态。《人民日报》倾向于表达中方立场和对日方的诉求，通过话语策略传达日方的主体责任意识；《朝日新闻》倾向于报道日本核污染水事件引发的社会事件和国际各方的反应，通过话语策略淡化日本的主体责任意识。究其原因，一是中日两国在日本核污染水事件中的不同立场；二是中日两国对待日本核污染水事件的不同政治诉求。本研究分析了中日两国纸媒报道的话语策略及其差异，以期对本国新闻话语中意识形态的建构有所启发，同时提高对外媒报道的审辨能力和判断能力，加深读者对外媒报道的理解。

格助詞「ニ」と他の格助詞の混同について

—中国語を母語とする日本語学習者の誤用例を手掛かりに—

立命館大学 呂芳

本研究は『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コンコーダンス Ver.12』

から抽出したデータを基に、中国語を母語とする日本語学習者の格助詞「二」と他の格助詞との混同による誤用を調べその誤用実態をあきらかにしたものである。

「二」と混同する格助詞は計 1778 例見つかり、そのうち、「二」を用いるべきところに誤って「を」「で」「が」「と」「から」「まで」「へ」を使用した例数はそれぞれ、1194 例、700 例、355 例、123 例、67 例、22 例と 17 例になる。本研究は格助詞「二」と他の格助詞と混同することを網羅的に記述することを目指してみたい。これらの誤用について格助詞の意味用法だけではなく、述語に見られる特徴にも注目し、誤用を生じる理由を分析し、誤用が起こらないように格助詞「二」の使用条件についてまとめてみたい。また特に誤用が多かった「を→に」「で→に」「が→に」について、格助詞「二」の意味や述語の特徴などから誤用例をパターン別にまとめることによって誤用実態を明らかにしたい。

中国語を母語とする日本語学習者における授受表現の誤用に関する一考察

—本動詞から補助動詞・補助動詞から本動詞への修正をめぐって—

広島大学大学院 朱峰

本発表の目的は、『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』を資料に、授受本動詞から授受補助動詞、授受補助動詞から授受本動詞に修正された (1)、(2) のような誤用例に焦点をあて、なぜこのような誤用が起きるのかを明らかにすることにある。

(1)日本人は他人に対する尊重と謙遜を前提として、相手から尊重<*をもらう→してもらう>。(※本動詞→補助動詞)

(2)「西遊記」はお経を<*取ってもらう→もらう>ために、東方から唐僧と言う僧侶が三人の弟子を連れて西方へ行くことが書かれています。(※補助動詞→本動詞)

考察の結果、授受対象が抽象物である場合には (1) のような誤用 (「※本動詞→補助動詞」) が起きやすく、逆に授受対象が具体物である場合には (2) のような誤用 (「※補助動詞→本動詞」) が起きやすいことが明らかになった。その要因は、授受表現の表す事態の描き方が母語話者と異なることにある。授受対象が抽象物である場合、学習者は事態の結果に注目し授受本動詞を用い表現する。それに対して、授受対象が具体物である場合、学習者は事態の結果のみならずそれを導く具体的な動作にも注目し、「動詞+授受補助動詞」の形で表現する。

中国語を母語とする日本語学習者における授受表現の誤用に関する一考察

—本動詞から補助動詞・補助動詞から本動詞への修正をめぐって—

広島大学 朱峰

本発表の目的は、『YUK タグ付き中国語母語話者日本語学習者作文コーパス』を資料に、授受本動詞から授受補助動詞、授受補助動詞から授受本動詞に修正された (1)、(2) のような誤用例に焦点をあて、なぜこのような誤用が起きるのかを明らかにすることにある。

(1) 日本人は他人に対する尊重と謙遜を前提として、相手から尊重<＊をもらう→してもら>。(＊本動詞→補助動詞)

(2) 「西遊記」はお経を<＊取ってもらう→もらう>ために、東方から唐僧と言う僧侶が三人の弟子を連れて西方へ行くことが書かれています。(＊補助動詞→本動詞)

考察の結果、授受対象が抽象物である場合には(1)のような誤用(「＊本動詞→補助動詞」)が起きやすく、逆に授受対象が具体物である場合には(2)のような誤用(「＊補助動詞→本動詞」)が起きやすいことが明らかになった。その要因は、授受表現の表す事態の描き方が母語話者と異なることにある。授受対象が抽象物である場合、学習者は事態の結果に注目し授受本動詞を用い表現する。それに対して、授受対象が具体物である場合、学習者は事態の結果のみならずそれを導く具体的な動作にも注目し、「動詞+授受補助動詞」の形で表現する。

日本語専攻において修士の日本語学習ビリーフ

—大学生の日本語学習ビリーフとの比較から—

南京農業大学 王艶

ビリーフは第二言語習得の学習者要因の一つとして、言語習得に非常に重要である。学習者の学習行動や学習成果に影響する心的態度と信念が「ビリーフ」(「言語教育観」、「言語学習観」と呼ばれている。近年、学習に関する研究において、ビリーフの重要性もよく指摘されている。Horwits(1987)では、学習改善のために教師が学習者のビリーフを把握することの重要性を指摘している。中国人学習者の日本語学習ビリーフについて、すでに多くの学者が研究を行っている。しかし、研究対象は主に大学生に集中しており、修士に関わることは少ない。修士と大学生はカリキュラムの設定、学生構成、育成要求などの面で大きな違いがある。板井(2000)は学習環境によって学習者の日本語学習ビリーフが異なると指摘した。そのため、上記の違いは修士と大学生の日本語学習ビリーフの相違にもつながる可能性がある。

したがって、本研究はアンケート調査を通じ、南京農業大学の日本語専攻の修士と大学生のビリーフを調べた。修士の学習ビリーフを大学生のビリーフと比較しながら分析・観察し、修士の日本語学習者が持つビリーフの傾向を明らかにしたい。

日常会話における形容詞に後続する否定疑問形式「クナイ」について

—コーパス調査から—

上海外国語大学 李修衍

近年、インターネットで「よくなくない?」・「よくなくなくない?」などといった言葉を目にすることがある。これは疑問上昇調のイントネーションを伴う文末形式「クナイ」が形容詞型活用形と組み合わさって、更にその間に二重否定が重なって用いられる婉曲な表現とされている。このような「クナイ」の意味としては、山口(2021)が「～のではないか」という「確認要求・同意要求」として用いられていると指摘した。また、これを疑問文の一種として、宮地(1979)が指摘した周辺的な疑問表現の意味分類に属すると考えてもよからう。本稿はコーパス調査を中心に「クナイ」の考察を行うため、上昇調のイントネーションを伴って文末にくる「クナイ」といった表現を形態的に否定疑問形式と呼ぶことにする。

古い日本の歌を調べれば、あえて面白おかしさを追求する言葉遊びのようではあったが、90年代に既に「形容詞型活用＋クナイ」・「形容詞型活用＋多重否定＋クナイ」という表現が作詞に用いられていたことが分かる（『今夜はブギー・バック』1994）。しかしながら、コーパスの調査によると、日常会話において、このような「クナイ」の用法にあたる使用例は近年になってはじめて出現するもので、比較的に新しい表現といってもよいと考えられる。21世紀にはいると、これを方言・若年層を中心に広がる表現とした、高木（2009）・平塚（2009）のような研究が見られるが、年代別・使用頻度・使用例の分析などを含めた調査は見られないようである。

本稿では、特に日常会話において、従来の研究が触れていない「形容詞型活用＋クナイ」という否定疑問形式を年代別・使用頻度・会話レジスター・共起状況をあわせて、CSJ・CEJC・NUCCという日本語会話・話し言葉系のコーパス調査を行い、その結果を踏まえて「クナイ」の構文的・意味的な特徴についての検討を試みる。

外国語教育の未来像 香港中文大学（深圳）人文科学院 松永源二郎

以前、通訳は人間にしかできないものと信じられてきた。しかし、今、AIの驚異的ともいえる発展によってこれまでの常識を覆す可能性が出てきた。2014年に設立された株式会社「みらい翻訳」は当初、2016年までにTOEIC700点を目指していたが、その目標が難なくクリアされた為、2019年までに800点相当を目指す軌道修正の発表を行っている。また、2017年には同時通訳ができるAI通訳機『ポケトーク』が日本市場で本格的に進出し、しかも2023年はCHT-GPTが登場し、高い翻訳機能も備えた対話型AIも急速に普及してきている。ムーアの法則から考えても、このような通訳・翻訳機の機能は更に向上していくであろうし、このままの流れでいけば、従来の外国語教育では立ちいかなくなる事態が差し迫っている。本論は、翻訳・通訳機が普及した後の、大学が育成すべき新たな外国語人材の姿とそれに相応しい外国語教育モデルとは何かについての考察である。筆者は2012年頃からこのような未来を想定し、授業を通して学生たちと議論してきた。2018年にそれらの内容をまとめた論文『外国語教育の未来像』が《日語研究》（第11輯）に掲載予定だったが、後に出版中止となった為、今回、更にその時に整理したものに加筆修正を加えたものを紹介する。

認知類型論的観点による中国人日本語学習者の「使役移動表現」についての習得研究

—日本語母語話者との比較を通して—

大連外国語大学 姜雨軒

使役移動表現は使役行為によって、移動物の移動が引き起こされる移動事象である。だが、移動の言語表現には、諸言語において大きな相違点があることが知られている。（Talmy, 1991, 2000; 松本, 2017 など）。そのため、中国人学習者は母語と異なる語彙化パターンに属する日本語をどのように習得しているのかについて考察を行う。

本稿は先行研究を踏まえて、認知類型論的観点から、言語産出実験を用いて、同一の使役移動事象を表現する中国人日本語学習者と日本語母語話者の言語化の仕組みの違いを究明すると同時に、中国人日本語学習者と日本語母語話者の使役移動事象の中核概念である経路がどのように言語化されていることを明らかにする。特に、中国人日本語学

習者と日本語母語話者の使役移動動詞の語彙化に焦点を絞り、両言語間の相違点を、実証の角度から中日両語の移動現象の概念構造と認知的制約を明らかにしたいと試みる。

移動表現の類型論に基づく中国人日本語学習者の「自律移動表現」に関する 習得研究

—日本語母語話者との比較を通して—

大連外国語大学 黄巧靈

移動表現は各言語における移動を表す手段があり、表現形式は言語によって異なる。日本語は典型的な「動詞枠付言語」であり、自律移動表現の場合も経路がよく主要動詞で表される。中国語は日本語と異なる言語類型に属し、そこで中国人日本語学習者は自律移動表現を産出した場合には、どのような特徴が見られるのか、そして学習者の産出と日本語母語話者の産出はどのような違いがあるのかについて考察する。

本研究では Talmy (1985、2000)、松本 (1997、2017、2021) の類型論および語彙化パターンの理論的枠組みに基づき、ビデオ映像を使用した言語産出実験を行い、中国人日本語学習者と日本語母語話者による自律移動表現に焦点を当て考察する。中国人学習者と日本語母語話者が産出した文における主要部として担われる動詞が自律移動事象のどの側面に着目して言語化しているのかを分析する。そして、移動事象における中核概念である経路がどのように言語化されていることを明らかにする。学習者と母語話者が同一の自律移動事象をどのように表現するのかを比較しながら、学習者と母語話者の違いとそれぞれの言語特徴を明らかにする。

日本語教育における CLIL の実践と可能性

広島大学 原華耶

CLIL とは、内容言語統合型学習のことであり、教科科目やテーマの内容の学習と外国語の学習を組み合わせた言語習得アプローチを指す。この学習方法では、教科内容と言語運用能力の両方を学ばせると同時に、バランスのとれた多様な学習活動を行わせることができる。1990 年代からヨーロッパを中心に広まり、近年、日本語教育の分野においても、CLIL を取り入れた実践教育が見られるようになってきている。

本稿は日本事情の授業で日本の地域社会を理解する事例を通して、CLIL を用いた日本語教育の実践報告である。学習者が住む地域(山口県下関市)についての理解を深めることをねらいとして、「わたしの町は日本一」のテーマを取り上げ、CLIL 理論を用いて授業を設計した。

実践の結果として、日本語学習者が自分の考えや思いを相手に伝えたいという思いが生まれ、自然により多くの語彙、文型、表現を増やすことができた。言い換えれば、CLIL の実践により、主体的なコミュニケーションが期待できると考えられた。

今回の実践から、CLIL を日本事情の授業に取り入れることは可能であり、多くの学習者が聞く、話す能力や日本語で考える、交流する能力が伸びたと感じた。しかし、CLIL を取り入れた授業の教材選定や活動の準備などに時間的余裕が必要なことを課題として残った。今後取り組みつつ、改善できるように研究や実践を重ねていきたい。

中国語評論記事の見出し翻訳の難点と技法 北京理工大学 吉田陽介

見出しは記事の顔というべきもので、内容が大体想像できるものである。日中両国の言語の違いがあり、しかも字数制限があるため、中国語の記事の見出しを簡潔に翻訳するのは難しい。特に評論記事は筆者の立場を踏まえたものにする必要がある。本報告は、中国語ニュースの評論記事に焦点を絞って、見出し翻訳の難点と技術について考えたいと思う。

“一带一路”视角下的中国典籍外译之路 —基于《红楼梦》双关语的日译考察— 浙江師範大学 戴媚佳

推动中国文化“走出去”是“一带一路”倡议的重要内容。中国典籍是中国文化对外传播的重要载体，而《红楼梦》更是其中的典范。双关语作为本土文化和语言的缩影，蕴含着丰富的价值，且在《红楼梦》中运用广泛、巧妙自然。因此，本文拟从双关语翻译的处理方法出发，基于德拉斯蒂塔的双关语翻译理论，采用平凡社《中国古典文学大系》第44、45、46卷出版的伊藤漱平《红楼梦》日译本中含双关语的人物对话作为研究对象，探讨伊藤漱平的翻译观，以期为中国典籍的日译提供些许思路。研究表明，伊藤漱平《红楼梦》日译本体现了伊藤漱平着重考虑译文充分性的翻译观，展现了伊藤漱平深厚的汉学修养以及他对《红楼梦》理性且精准的意义解读与文化阐释；也表明典籍日译需要译者巧用注释、善用符号，做到学术型翻译和普及型翻译兼具、译文深入浅出，同时需要注重翻译观，从而掌握文化话语权，向世界阐释推介更多具有中国特色、体现中国精神、蕴藏中国智慧的优秀文化，努力塑造可信、可爱、可敬的中国形象。

松冈荣志新译《诗经》的颜色词体认构建 南京農業大学 左玉林

本文基于体认语言学,结合构式语法的分析理念,从语义、语构以及语用三大层面分析《诗经》中的颜色词日译认知模式,剖析松冈荣志现代日语新译《诗经》中的颜色词体认构建。松冈荣志凭借译者的深度体认解构《诗经》颜色词概念,跨越中日颜色词在语义广度、深度、意象图式以及隐喻意义方面的差异,并构日文颜色词的屈折变化和灵活多样的词性,弥补日语语义单一的缺陷,依托实际语境完善意义表征,精细化视觉再现与重组。松冈借助译者体认的跨感官迁移,将视觉体认迁移至味觉、听觉、触觉等其他感官体认。跨体认翻译引发多维通感,大大丰富了颜色效用,拓宽了读者的体认感官联想渠道,通过体认翻译形成的作者空间、译者空间与读者空间全面映射出中国先秦时期的社会生活颜色简图。松冈《诗经》颜色词的跨体认翻译极大赋予了中国典籍在海外的文本生命活力,生生不息地延续中国典籍现实乃至未来的文本生命。

日本可再生能源政策文本批评话语分析研究 大連外国語大学 崔玥婷

当今世界环境污染日益加重、不可再生资源持续枯竭，使能源问题已成为全球关注的焦点问题。世界各国为应对全球气候变化和能源安全等全球性挑战，正大力发展新型可再

生能源、促进全球能源转型。日本作为世界上的重要国际经济体之一，其可再生能源政策的制定和实施有助于推动全球可再生能源发展。

本文以日本《能源白皮书》为研究对象，并自建语料库，开展定性、定量相结合的批评话语分析研究。采用批评话语分析的研究方法，以露丝·沃达克的话语历史分析法（DHA）为理论框架，首先运用语料库检索软件，进行高频词的检索及分析；其次就语篇之间的关系进行互文性分析；最后参照话语历史分析法的五大策略：命名策略、述谓策略、辩论策略、视角化策略、强化弱化策略进行话语策略分析。本文将侧重于对命名策略进行分析，聚焦指示词、称谓、隐喻、转喻、提喻等具体语言表征进行分析。

本文通过对日本可再生能源政策文本的分析，旨在探究话语策略及其背后隐藏的意识形态的关系，以期对话语历史分析法与语料库相结合的研究方法发展提供借鉴。

汉语“如果类”假定条件句式日译倾向计量研究

大连理工大学 于麗娟

自十九世纪八十年代以来，随着中日交流的日渐密切，经济、政治、文化等各个领域翻译需求大量增加，并且对外教育领域中日语语言研究也逐渐受到关注。特别是近年来，随着科学技术的进步，语言学研究方法越来越多样化，语料库语言学快速发展，许多学者开始利用科学计量学的理论和方法进行中日语言对比研究。其中，复句研究一直是中日语言对比研究中的重点，经过研究者的不懈探索和努力，其研究已取得了显著的成果。“如果”作为汉语中假设复句的典型标志之一，在汉日翻译领域中对应的日语翻译形式多种多样，导致日语学习者在选择翻译形式的时候往往会感觉迷惑，花费更多时间却难以选择合适的日语表现形式进行翻译。

因此，本文从语料库语言学的角度，以从 100 部中国文学作品及其对应日语译本中选取的 567 例的“如果类”条件句及其对应译文为研究对象，通过函数检验的方式，使用 KH Coder 数据挖掘工具，将汉语中“如果类”条件句的后项副词与其日语表现形式、时态的对应关系进行可视化分析，探究“如果类”条件句的中日对译倾向。

基于汉日对译语料库，本文将“如果类”条件句后项关联副词分为了Ⅰ就、Ⅱ才、Ⅲ一定、Ⅳ該、Ⅴ還、Ⅵ可能、Ⅶ早、Ⅷ無八种，同时对其相对应的日语表现形式进行整理，将其归纳为九种，分别为①たら、②と、③(の)なら、④ば、⑤ていれば、⑥ていたら、⑦ていと、⑧ているなら、⑨その他。

在机器翻译迅速发展的今天，明确“如果类”条件句的日语翻译倾向旨在为译者提供一个更为准确的翻译模式，提高翻译效率，为中华文化的对日传播做出一定的贡献。

多変量解析による証拠性モダリティの日中対訳研究

ーラシイ、ソウダ、ヨウダを中心にー

大连理工大学 田浚人

日本では「曖昧文化」の影響により、日本語話者が自分の意見や推論を明示的かつ直接的に表現せず、モダリティを多用する傾向があるとされている。日本語において「述べ方」や「発話の様式」を表す部分をモダリティと呼び、特に話し手が観察したことや証拠に基づく推定を表す形式類と伝聞を表す証拠性モダリティが頻繁に使用されている。中国語との異言語比較の側面から見れば、中国語ではモダリティが比較的単純であるため、中国語母語話者にとってその理解が難しく、混乱を招く可能性がある。証拠性モダリティの複雑性は特に課題となり、これらの表現には相互に言い換えが可能になること

もある類似の表現が多いことから、作文や読解においても誤りを生じ得る。そのため、証拠性モダリティに関する対訳関係をより明確にすることが重要となる。

既存の対訳研究では、例証研究や計量的手法を用いた日中対訳の分析が行われているが、それが証拠性モダリティの形式上の対訳関係だけで、意味分類などの要因を考察していなかったのである。多変量解析法を用い、文の構成を影響するモダリティの意味分類や共起語などを全体に考察する研究はまだ限られている。多変量解析法は通常、医学や経済学、統計学などの分野で使用されているが、日中対訳の文法研究への応用はまだ未開拓の領域である。そのため、本研究は日中対訳コーパスに基づき、KHcoder による多変量解析法を用いて、「ヨウダ」「ラシイ」「ソウダ」を代表とする証拠性モダリティを意味的に再分類し、より正確かつ明示的な証拠性モダリティの日中対訳関係を構築することを目指している。

選択体系機能理論に基づく中日翻訳分析
—原文・学習者訳・熟達者訳の比較を通して—
西南学院大学 単艾婷

本研究は、選択体系機能理論を基盤として、中日翻訳の実践的な問題点を詳細に分析するものである。具体的には、「観念構成的機能」「対人的機能」「テキスト形成的機能」の 3 つのメタ機能とそれらの言語的な具現形式を用いて、中国語の短編小説の原文とそれに対する学習者訳および熟達者訳の三者間での比較分析を行う。この分析を通じて、以下の 2 つの問いに答える。①学習者訳が熟達者訳と比較してどの部分における翻訳が不足しているのか、そして②その不足がなぜ生じるのか、その主な原因を中日両言語の差異を通じて検討する。最終的に、得られた知見を整理し、中日翻訳の注意点や翻訳ストラテジーについて具体的な提言を行う。